

地域 コミュニティの 防災力

重川 希志依

連載 第4回



重川 希志依

コミュニティとは、“地域社会・共同体。居住地や関心を共にすることで営まれる共同体”と定義されています。これまで繰り返し述べてきたことですが、災害発生時に人命を救い、被災者のくらしの再建にとって最も大きな力を発揮するのは、人と人とのつながり、すなわちコミュニティの防災力に他なりません。

私たちは、阪神・淡路大震災以降、被災地でのエスノグラフィー調査（構造化されないインタビュー調査）を実施し、多くの方たちの震災体験を記録してきました。それを通じて明らか

となったことの一つとして、地域コミュニティが力を発揮するためには、リーダーの存在が極めて重要であるという点が挙げられます。具体的に、どの時点で、どのような人が、どのような役割を果たすリーダーとして活躍したのでしょうか。

①発災後10時間までのフェーズ（災害発生直後の混沌とした時間帯）、②発災後100時間までのフェーズ（組織的な災害対応が開始される時間帯）、③発災後1000時間までのフェーズ（生き残った被災者の生活を維持する時間帯）に分けて、リーダーの存在や役割を分析してみます。

1 10時間までのフェーズ

地域の防災リーダーとして活動していた人たちは、「近所の人」、「単身老人の隣のご主人」、「裏に住む文化住宅の大家」、「近くの企業の寮に住む若い従業員」、「独居老人宅の向かいに住む夫婦」、「地域に住んでいる看護師」といった、物理的に距離が近いところにいた人たちが多く目立ち、さらに「若いから力もある」、「私は声大きいですから」、「ワーッと人に言って、人を動かす」、「バーッと走り回って」といったように、行動的で大きな声で人を集め、人に指示す

地域コミュニティの 防災力 重川 希志依

ることができるタイプの人が多く見られました。近隣住民の間で、行動的で声が大きく、人に指示して動かすことが得意なタイプの人が、個人的資質を生かして自然とリーダーの役を担っていたのです。このような人たちが、日頃からのつながりを基礎に、自ら率先して、あるいは周囲の人の協力を得ながら、近隣住民の安否確認、生き埋め者救出、二次災害防止や要援護者対応など、多くの人に声をかけ、人を集め、緊急性の高いニーズを選んで対応しています。

【具体的なリーダーの対応の例】

「僕はすぐね、つぶれて2階が無くなってる状態ですから、個人の力ではどうにもならない。家の電話はかからないからすぐ公衆電話に走っていった。もうすでに14~5人ずつ並んでましたね。それで“悪いけど助けてくれって言ってるんで前にさしてくれ”と言ったら一番目にさしてくれた。でも押せども全然でません。で、近くに交番があるのを思い出してすぐそこに行ったんです。でも“それどころじゃありません。警察もね、消防署もね、ものすごいやられて、どうしようもないんです。自衛でやってください”。そう言われたんでまたすぐ帰って、その時にはもう若い人たちがどんどん集まってきてた（倒壊家屋の隣家の男性）」。

「Fさんとこのベンチでね、いつも近所のお年寄り5人が並んで座っておしゃべりしてはるんですよ。私はそのグループよう見かけるんですけどね、その時は4人なんですよ。“あら、Mさんのおばあちゃんがない”言うたら、“ああ、ほんまやね”言うて、見たら家の表はどうもないんですけど裏がつぶれてる。ほんで“もう一人ここに埋まってる”言うて、若いもん大勢呼んできて、出してもろたんですけどね（地域に住む看護師）」。

「お二人の遺体を持って行く時、私がついて行って、事業会館で“緊急やからちょっとここで預かってね”言うて。普段から私は事業会館によく関わって知ってるもんやから、事業会館の1階の奥の板の間がいつも空いてるの知ってた。そしたら、“許可得ないと”言うから“そ

んなもんでもええ。こんな時に許可もヘチマもない。館長さんに私、また連絡するから”言うてね（地域に住む看護師）」。

「Sさんのところでも“手、貸して”言うて。若い人は声をかけられて初めて動くんですよ。動きたいという気持ちがあって、すぐ動くんですけど、声をかけるまでは手を出しにくい、言われました（地域に住む看護師）」。

2 100時間までのフェーズ

このフェーズでは、「学校の先生」、「自治会役員」、「お寺の信者」、「お米屋さん」、「教会関係者」、「消防団分団長」といった、普段から地域住民や地域内組織とのつながりのある人が多く、さらに「あの人はお米を配達するから、顔を知ってるし、面倒見がいいからね」、「よう世話してくれはった」、「世話好きな方」といったように、地域の人のことを良く知っていて、面倒見が良く世話好き、というタイプの人が多いことが特徴といえます。

このような人たちが、組織内での立場や指名に基づきリーダーの役割を担い、また、リーダーをサポートする人たちと相談しながら、地域内や外部からもたらされる様々な資源を活用して、避難所の管理運営や高齢の自宅避難者に対する食料や水の提供などの活動を行います。

【具体的なリーダーの対応例】

「最初は食事のお世話を一生懸命してたんですけど、やっぱり一生懸命する人と全然しない人に分かれて、不満が出て。初めは喜んで皆が頑張ろうね言うてスタートしても、家にあるものを持ってきて作る人がだんだん限られてくるんですね。受けるだけの人はずっと受けるだけやからね。いつまでも私たちがしなあかんのかしらという感じで（主婦）」。

「事業会館は公設の避難所やないから、三日経っても一週間経っても、よそから何も来ないんです。ほんで“避難してる人は何人”いうて、毎日名簿こしらえてね。それから村長さんを作ろういうことになって、お米屋さんのHさんに頼もういうてね。あの人はお米を配達するから

地域コミュニティの 防災力 重川 希志依

顔をよく知ってるし、面倒見がいいからね（地域に住んでいる看護師）。

「ここにはいないけれどもお家で避難していて、お弁当を持ってきてほしいという方もいらっしゃいました。年配の方で、ま、家は何とか大丈夫だけど、動けない、気力的にショックが大きくてね。そういう人に対しては、私たちとしてもこんなとこに一人いてはったという感じで。訪問して誰かいますかーという感じで（避難所となった教会の神学生）」。

「役所へね、“自転車のお古あるでしょ、あれ貸し出ししなさい”言うて何回か電話入れたんですけど“わかりました、わかりました”言うけど何もしてくれへんから、腹たってねえ。そしたら何週間か後にね、役所が自転車貸し出しますいうて、やったんですよ。高松の事業所で皆に自転車貸し出ししたんです（地域に住んでいる看護師）」。

3 1000時間までのフェーズ

地縁によるつながりに加えて、趣味のサークル、会社のつながりなど、日頃の生活で培われてきた様々な縁によるコミュニティが機能していることがわかりました。またその内容は、避難所生活から次のステップである生活再建に向けた被災者支援に関わる役割を果たしています。

【具体的なリーダーの対応の例】

「ほんとうに有難いことでね、地区の係りをしていらっしゃるご主人さんがね、今津の公民館に来て、一人で何もかも交渉できない人は皆その方が交渉して下さったんです。私が一人でも知っているものですから。“Aさんね、今後のいろいろな処置のことはいっぱい僕がするから、もう安心してください”と言ってくれて（町内会の役員）」。

「Iさんのところ運送会社だから1階がガレージになってたんです。そこへ私たち皆の荷物を預かって下さいましてね。ここのマンションが見つかるまで預かってくれて、ここが見つかったらここまで運んで下さった。“これはAさんの

荷物、これはMさんの荷物”って皆分類して。それを全部Iさんのご主人と坊ちゃんが運んで下さいましてね。だからやっぱり皆さんを大事にするって言うことはこういう時に（近所の運送会社）」。

「このアパートの4階に今津で教えていたお茶のお弟子さんがいて、お弟子さん方には私の家が潰れて住めないことも伝わってるものだから、皆もう心配してね。でその子が“この部屋が空いてる。道路に面して不自由なうるさい部屋ですけど先生が我慢できるんだったらこの管理人さんに交渉します”って。その子がすぐ保証人になってくれて。それでこの部屋が見つかって落ち着くようになりましたんです（お茶のお弟子さん）」。

4 防災リーダーに求められる資質

これまで述べてきたように、災害時の地域のリーダーは、災害発生後の時間の経過と共に、異なった立場の人が次々とリーダーの役割を果たしていたことが分かります。一人のリーダーが終始一貫してリーダーの役割を担っているわけではありませんでした。また、リーダーが果たす役割も、直後は人命救助や初期消火、ガス漏れ防止など、緊急性の高い防災活動を指揮することですが、その後は、避難者の名簿作りに始まりトイレ用水の確保や少ない食料の公平な配分といった対応や、在宅で避難生活を送っている高齢被災者の飲料水や食事といった個別ニーズへの対応など、被災状況下で地域住民が生き延びるうえで必要な、避難生活の管理運営・支援に関連する活動が行われています。さらにその後のフェーズでは、次のステップとなる被災者のくらしの再建のために、自らも被災者であるリーダーが、地域住民のために奔走していたのです。災害時に、地域の防災リーダーとして活躍できる人材は、いわゆる“防災の専門的知識”を習得しているだけではなく、社会人として、あるいは日頃から地域に愛着を持ち暮らし地域人としての常識や良識を兼ね備えていることが必要なのではないでしょうか。